

中間報告書（平成 22 年度）

提出者 今田絵里香

提出年月日 2011 年 3 月 31 日

【プロジェクト名】

和文

「戦後日本におけるセクシュアリティと親密性の再編」

英文

Sexuality and Reconstruction of Intimacy in Postwar Japan

【メンバー構成】

研究代表者 小山静子（京都大学人間・環境学研究科教授）

幹事 赤枝香奈子（京都大学文学研究科特定助教）、今田絵里香（同）

メンバー 一宮真佐子（京都大学文学研究科研究員）、菅野優香（京都大学人文科学研究所研究員）、前川直哉（京都大学人間・環境学研究科博士後期課程）、田中亜以子（同）、朴珍姫（京都大学文学研究科博士後期課程）、トジラカーン・マシマ（同）、日高利泰（京都大学文学部聴講生）、桑原桃音（龍谷大学非常勤講師）、中山良子（大阪大学文学研究科博士後期課程）、リ・ユンヒ（総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程）

【ねらいと目的】（600 字程度）

本研究は、戦後日本社会においていかなるセクシュアリティ規範が形成されたのか、それは親密圏の形成にどのような影響を及ぼしたか、その解明を目指すものである。とくに、これまであまり研究されてこなかった若者のセクシュアリティについて、戦前と比較しどのような変化が見られるかを検討し、さらに他のアジア諸国との比較も行いながら、国家横断的に形成されつつある新たなセクシュアリティ文化についても考察する。

戦後日本のジェンダー秩序にかんしては、すでに社会学、女性学等において豊富な研究の蓄積がある。その結果、日本においては戦後、男女の性別役割分業に基づく女性の専業主婦化が広まったことが明らかとなった。そして、サラリーマン男性と専業主婦、その実子からなる「近代家族」が規範としても実態としても浸透し、この家族形態を前提とする社会体制が作られたことが論じられてきた。

セクシュアリティにかんしても、夫婦間の性関係の変容（避妊の知識やその実践、楽しみとしての性の広まり等）については、政策面とのかかわりまで視野に入れた研究がなされている。ただそれは、戦後日本のセクシュアリティのごく限られた一面にすぎない。メディア上では、戦後まもない頃から性にかかわる話題が一般誌等でも公に語られるようになったが、その一方で若者に対しては純潔教育が説かれるなど、単純に「性の解放」とは括ることのできない、ジェンダーや年齢によって異なる重層的なセクシュアリティ規範が

見られる。また「明るい」男女交際や「明るい」夫婦生活が語られるようになる一方で、同性愛は戦前に比べ、よりスティグマ化され厳しく批判されるようになった。

これらセクシュアリティをめぐる規範は、日本固有のものというよりも、海外の思想的影響を取捨選択しつつ形成されたものであり、また、戦後突如として始まったものではなく戦前から時間をかけて醸成され浸透してきたものである。さらに近年では、漫画やインターネット等のメディアを介して、日本で形成されたセクシュアリティ文化（「やおい」「百合」等）がグローバルな人気を見せていることにも表れているように、セクシュアリティをめぐる規範や文化は一国のみで形成されるものでもない。

このように、戦前日本、さらには海外とも連続性を持ちつつ、重層的に構築された戦後のセクシュアリティ規範について、結婚や家族の形成には至らないセクシュアリティをも視野に入れながら総体的に明らかにする。そして戦後日本の親密圏がセクシュアリティや親密性とどのような関係にあったのかを解明したい。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等
調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等
その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

(1) 研究会及び特別セミナーの開催

種別	月日	報告者	報告タイトル
研究会①	2010年7月30日	赤枝香奈子	「日本とタイにおける「レズビアン」カテゴリー」
研究会②	2010年9月20日	前川直哉	「1970年代の『薔薇族』に見る男性同性愛者と異性婚」
研究会③	2010年10月23日	古川誠	「近代日本の性言説におけるジェンダーとセクシュアリティの関係」
研究会④	2010年10月29日	田中亜以子	「夫婦間セックスの意味の変容——戦前から戦後にかけて」
研究会⑤	2010年11月22日	トジラカーン・マシマ	「タイの少女マンガ出版の歴史について」
特別上映	2010年12月25日	参加者：赤枝香奈子、今田絵里香、菅野優香、中山良子ほか（場所：東京国立美術館フィルムセンター）	①『女ばかりの夜』田中絹代（1961）東京映画 35mm プリント 92分、②『乙女シリーズその二 花物語 釣鐘草』川手二郎（1935）新興キネマ 35mm プリント 53分
特別セミナー①	2010年11月28日	石田仁	「ホモの普及」

研究会⑥	2011年1月20日	一宮真佐子	「マンガに描かれた農村におけるセクシュアリティとジェンダーの再構築／強化」
研究会⑦	2011年3月20日	朴珍姫	「『純情漫画化』する韓国テレビドラマの形成過程とその特徴」
特別セミナー②	2011年3月22日	川村邦光	「純潔／純血イデオロギーをめぐる」
		斎藤光	「1940年代後半から50年代前半にかけての純潔教育施策——その意味を考えるために」

(2) 調査の実施

種別	年月日	調査地	調査者／参加者	目的
セミナー兼打ち合わせ	2010年12月10日	日本	赤枝香奈子、今田絵里香、一宮真佐子、トジラカーン・マシマほか	タイ調査に向けて、Thanes WONGYANNAVA (Thammasat University) によるタイのセクシュアリティと政治状況にかんするインフォーマル・セミナーを開催する
セミナー兼打ち合わせ	2011年1月19日	日本	赤枝香奈子、今田絵里香、一宮真佐子、菅野優香、トジラカーン・マシマ	タイ調査に向けて、トジラカーン・マシマによるタイの出版文化についてのセミナーを開催する
調査	2011年2月7～16日	タイ・バンコク	赤枝香奈子、今田絵里香、一宮真佐子、菅野優香、トジラカーン・マシマ	①タイの少女雑誌文化について明らかにするため、E.Q.PLUS Publishingなどで、聞き取り調査を実施、また表紙絵画家に聞き取り調査を実施する ②タイのセクシュアル・マイノリティ文化について明らかにするため、@tom actなどで、聞き取り調査を実施する
反省会	2011年3月4日	日本	赤枝香奈子、今田絵里香、一宮真佐子、菅野優香、トジラカーン・マシマ	タイ調査のまとめを行い、今後の方向性について話し合う

【成果の概要】(800字程度)

1950～70年代、セクシュアリティの規範や文化が戦前とは異なる形で構築されたと考えられる。このセクシュアリティの規範や文化を史料分析、聞き取り調査、国際比較によって歴史的に考察した。また、戦後の異性愛規範の変化やセクシュアル・マイノリティの認識枠組みの変容について、特別セミナーや特別上映を通して、理解を深めた。

(1) 1950～70年代の雑誌の分析によって、戦後における夫婦間性愛をめぐる言説に変化が見られることが明らかになった。例えば、女性雑誌『主婦之友』の分析からは、1950

年代においては、戦前とは対照的に、夫婦間セックスのみが愛情と快樂の場であるとされ、その具体的実現方法として、平等かつ民主的な夫婦間セックスのありよう、すなわち夫と妻が相補的な役割を担いながら一つのゴールを目指すというありようが提示されていたことが明らかになった。しかし、このような夫婦間性愛をめぐる変容は一様に起こったわけではない。1970～2000年代のマンガ雑誌に連載された「農村をテーマにしたマンガ」の分析からは、90年代になってようやく、従来の「嫁」役割とは異なるような農村に生きる女性が描かれるようになったことが確認された。また2000年代以降、これらのマンガにおいて、セクシュアル・マイノリティが描かれるようになったことが明らかになった。

(2) 1950～70年代のゲイ雑誌、ゲイ・レズビアン表象の分析によって、戦後日本において同性愛者がどのようにカテゴリー化されたか、また彼／彼女たちと異性愛規範との関わりはいかなるものだったかを考察した。

1970年代のゲイ雑誌『薔薇族』を分析し、男性同性愛者が求める「結婚のあり方」を明らかにした。男性同性愛者を読者とする『薔薇族』においても、結婚は深刻な問題として取り扱われており、異性愛規範と自己の性的指向との相容れなさに悩む読者の姿が確認された。しかし、日本においては、そのような葛藤を抱えない男性たち、すなわち、「普通に」結婚しつつも時折、同性との性関係を楽しむ男性たちが、現在に至るまで少なからず存在することも推察された。

1950～70年代のレズビアン表象の分析から、戦前には一般的ではなかった、女性同性愛(者)の名称である「レズビアン」という用語が定着していく過程において、男性的な女性同性愛者が周縁化されていく様相を明らかにした。

(3) タイの少女マンガ文化、及び韓国の少女マンガ文化の歴史を明らかにすることによって、日本の少女マンガを通してセクシュアリティの規範、文化が輸入されていること、かつ、そのセクシュアリティの規範は、タイ及び韓国のセクシュアリティの規範と合わさって、独自の規範に改変されていることが明らかになった。例えば、韓国では日本の少女マンガは「純情漫画」とカテゴライズされて輸入され、日本の異性愛規範を受け入れつつ、より純愛・純潔志向で、男女ともにセクシュアリティを排除した身体を賛美する傾向が見られることがわかった。さらに、タイにおけるフィールド調査によって、このようなセクシュアリティ規範の改変が、日本からの影響だけによるものではないことが確認された。また、消費社会の発展とあいまって、タイのセクシュアル・マイノリティの表象やネットワーク形成が急速に変化しつつあることも確認された。

(5) 上記の個人研究の成果および、特別セミナーや特別上映における議論から、性の解放がうたわれた戦後日本において、逆に性的主体性を奪ったり規制したりする動きが同時に見られることが確認された。そして、「性の解放」言説と性にかんする規制が表裏一体となって構築された戦後日本のセクシュアリティ規範について、その輪郭を明らかにすることができた。

【通信欄】

(事務局記入欄)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	(千円)	実績額